

岩手県感染症週報

令和元年第42週（10月14日～10月20日）

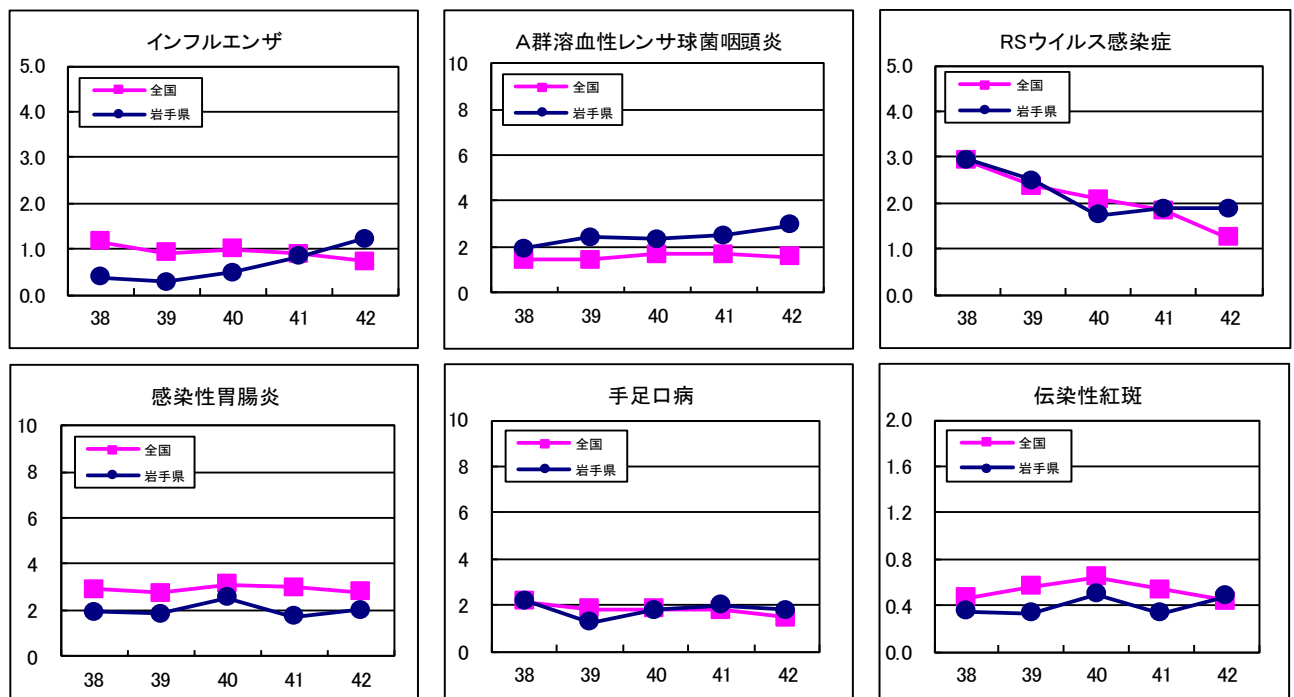
岩手県感染症情報センター

第42週の概要

- 1 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 3 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 4 類感染症 ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症（全数把握対象疾患）
 - ・百日咳の報告が釜石地区から1例ありました。患者は40歳代の女性です。
- 5 類感染症（定点把握対象疾患）
 - ・インフルエンザは、定点当たり患者数が1.22人となり、流行開始の目安である1.0人を上回りました。過去10年間で最も早く流行入りしました。ワクチンは効果が現れるまでに2週間程度かかるため、早めの接種が勧められます。症状がある場合は、マスクを着用のうえ、早めに受診してください。
 - ・溶連菌咽頭炎は、前週より増加し、盛岡市で警報値（定点当たり患者数8人）を超えました。本疾患は、発熱や咽頭痛を主症状とする細菌感染症です。肺炎や腎炎等の合併症を引き起こす場合もあるので、治療の際は医師の指示に従い、抗菌薬を飲みきることが重要です。予防には、手洗いとうがいの励行、患者との濃厚接触を避けることが重要です。
 - ・台風の被災地では、がれきや泥の撤去時に破傷風等の感染症に罹患しないよう、丈夫な手袋や厚底の靴、マスクやゴーグルを着用することが重要です。また、作業後は石けんと流水による手洗いを徹底してください。

最近の注目疾患（定点あたり患者数の過去5週の動き）

（疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意）



定点把握対象疾患（過去5週の動き）

報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症（定点把握疾患）から5類感染症（全数把握疾患）へ変更されました。
 ※2013年第42週より感染性胃腸炎（ロタウイルス）が定点把握対象疾患となりました。

（定点あたり患者数）

疾病名	地域	週					流行傾向	
		38	39	40	41	42		
インフルエンザ	岩手県	0.38	0.28	0.48	0.82	1.22	↗	☆
	全国	1.16	0.92	0.99	0.90	0.72		
RSウイルス感染症	岩手県	2.95	2.50	1.73	1.88	1.88	→	☆
	全国	2.91	2.36	2.07	1.84	1.23		
咽頭結膜熱	岩手県	0.08	0.10	0.28	0.18	0.18	→	☆
	全国	0.40	0.36	0.40	0.39	0.34		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	1.90	2.43	2.33	2.48	2.95	↗	☆☆
	全国	1.44	1.42	1.66	1.68	1.54		
感染性胃腸炎	岩手県	1.90	1.83	2.55	1.73	2.00	→	☆
	全国	2.90	2.74	3.10	3.00	2.80		
水痘	岩手県	0.10	0.08	0.60	0.03	0.43	↗	☆
	全国	0.24	0.21	0.25	0.22	0.22		
手足口病	岩手県	2.20	1.25	1.78	2.00	1.80	→	☆☆
	全国	2.17	1.82	1.82	1.80	1.46		
伝染性紅斑	岩手県	0.35	0.33	0.50	0.33	0.48	→	☆☆
	全国	0.46	0.56	0.64	0.54	0.44		
突発性発疹	岩手県	0.38	0.25	0.33	0.53	0.48	→	☆
	全国	0.37	0.35	0.38	0.37	0.36		
ヘルパンギーナ	岩手県	1.25	0.58	0.75	0.90	0.33	↘	☆
	全国	0.79	0.59	0.61	0.59	0.33		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.08	0.00	0.15	0.08	0.08	→	
	全国	0.09	0.09	0.11	0.09	0.08		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00		
流行性角結膜炎	岩手県	0.07	0.07	0.21	0.07	0.07	→	
	全国	0.75	0.73	0.80	0.70	0.63		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.05	0.05	0.03	0.05	0.05		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.21	0.05	0.21	0.16	0.11	→	☆
	全国	0.34	0.28	0.38	0.39	0.35		
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.00	0.00	0.00	0.01		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01		
インフルエンザ（入院患者） ※報告数であることに注意	岩手県	1	1	3	5	1		
	全国	110	73	88	84	68		

【流行傾向の見方】

- 無印：ほとんど患者が発生していません
- ☆：患者が発生しています
- ☆☆：警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆：多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		38	39	40	41	42		42	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	2 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	132 (63)	252	17151
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	4
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	79
	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	5	2	0	61	63	3184
	腸チフス	0	0	0	0	0	1	0	33
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	14
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	4	5	403
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	4	3	371
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	16
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	13
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	5
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	2
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	1
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	4	92
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	2	42
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	1	89
	デング熱	0	1	0	0	0	2	2	389
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	19	248
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	1	4
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	2
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	1	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	46	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	13	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	2	
レジオネラ症	1	0	2	0	0	21	35	1910	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	1	20	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患（続き）（過去5週の動き）

（患者発生数）

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 38	39	40	41	42	累計	42	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	1	0	0	0	3	6	698
	ウイルス性肝炎（A型肝炎及びE型肝炎を除く）	0	1	0	0	0	1	2	269
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	0	0	0	0	0	1	18	1763
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	1	62
	急性脳炎（ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く）	0	0	0	0	0	8	6	702
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	1	19
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	1	152
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	0	0	6	7	730
	後天性免疫不全症候群	1	0	0	0	0	1	10	946
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	2	36
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	1	5	452
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	40
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	2	1	0	16	25	2526
	水痘（入院例）	0	0	0	0	0	1	3	378
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	3
	梅毒	0	0	0	0	0	19	65	5351
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	3	116
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	101
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	61
百日咳	1	4	6	0	1	46	204	14013	
風しん	0	0	0	0	0	1	7	2238	
麻しん	0	0	0	0	0	1	4	723	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	24	

今注目の感染症

RSウイルス感染症

RSウイルス感染症は、RSウイルス（Respiratory Syncytial Virus）を原因とする呼吸器疾患です。1歳までに半数以上が、2歳までにはほぼ100%の乳幼児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。症状は、軽い風邪様症状から重い肺炎まで様々ですが、生後数週間から数か月間の乳幼児が初めてRSウイルスに感染した場合には重症化しやすく、細気管支炎や肺炎など重篤な症状を引き起こす場合があります。

感染経路は、咳やくしゃみなどの飛沫感染、ウイルスが付着した手指などを介した接触感染です。手洗いや咳エチケットをはじめとした基本的な予防対策が重要です。

【参考】

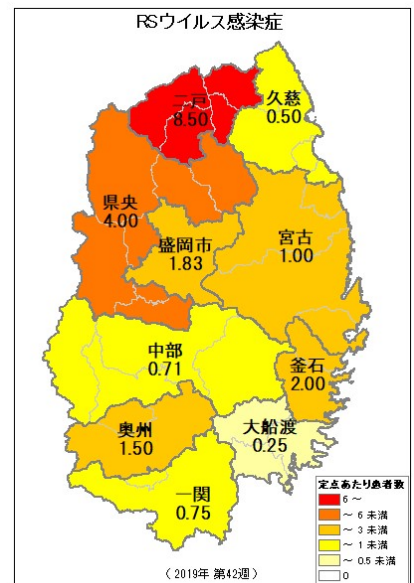
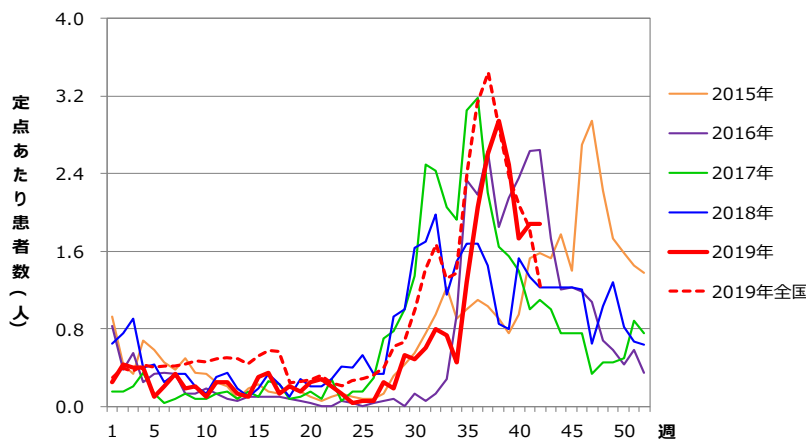
- ・RSウイルス感染症Q&A（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

- ・RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/317-rs-intro.html>

岩手県におけるRSウイルス感染症週別患者報告数



※RSウイルス感染症には警報値、注意報値が定められておりません。

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区画データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
 ※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）」を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

今注目の感染症（つづき）

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は、ベロ毒素（Vero toxin = VT、またはShiga toxin =Stxとも呼ばれる）を産生する大腸菌によって引き起こされる感染症です。症状は、無症状から軽度の下痢、激しい腹痛、頻回の水様便、著しい血便と様々です。さらに、溶血性尿毒症症候群による腎不全や脳症などの重篤な合併症を引き起こす場合もあります。

岩手県では、2019年第42週までに、県央地区から11例、盛岡市から15例、中部地区から8例、奥州地区から18例、一関地区から3例、大船渡地区から2例、釜石地区から1例、宮古地区から1例、久慈地区から1例、二戸地区から1例、計61例の報告がありました。原因となった大腸菌は、O26が25例、O157が23例、O111が3例、その他が10例でした。年齢層別では、0～9歳が最も多く24例、次いで70歳以上が10例でした。

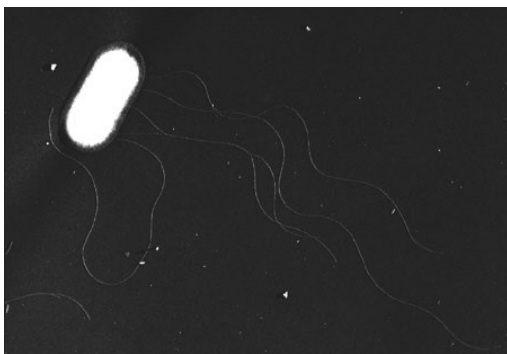
予防対策としては、食中毒予防の3原則（食中毒菌をつけない、増やさない、やっつける）を徹底し、生肉や加熱不十分な食肉を食べないことが重要です。また、ヒトからヒトへの二次感染を防ぐため、食事の前やトイレの後などには石けんと流水による手洗いを行うことが重要です。

【参考】・腸管出血性大腸菌感染症とは（国立感染症研究所）

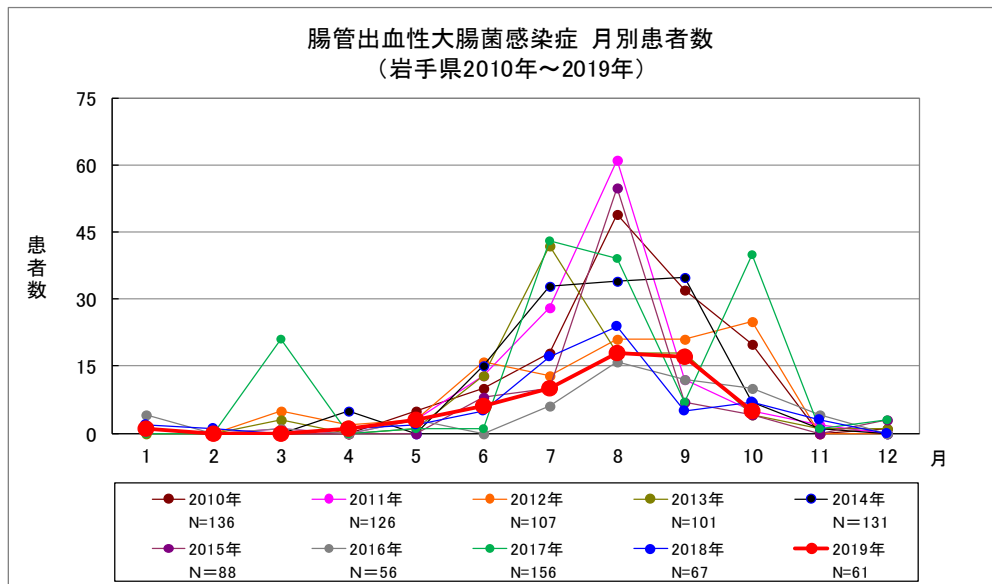
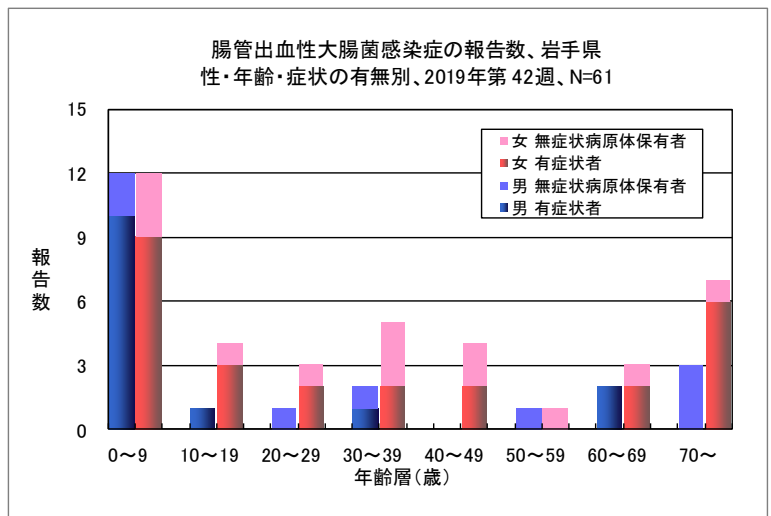
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/439-ehc-intro.html>

・腸管出血性大腸菌Q & A（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177609.html>



腸管出血性大腸菌O157：H7の電子顕微鏡写真（15,000倍）
-国立感染症研究所HPより-



今注目の感染症（つづき）

風しん

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる、発熱、発疹、リンパ節の腫脹を特徴とする急性の発疹性感染症です。風しんウイルスは、患者の飛沫（唾液のしぶき）などによりヒトからヒトへ感染します。潜伏期間は2週間程度で、発疹が出る前後1週間位がヒトへの感染力があるとされています。風しんに免疫を持たない妊婦の方が妊娠第20週頃までに感染すると、「先天性風しん症候群」という目や心臓、耳などに障害を持つ子供が生まれる可能性があり、妊婦への感染を防止することが重要です。

全国では、2018年第30週以降、関東地方で報告数が大幅に増加し、2018年の累積報告数は2,946人と、全国流行があった2013年（14,344人）に次いで2番目に多い報告数となりました。2019年は第41週までに2,228人が報告されています。男女別にみますと、男性の報告数（1,750人）が女性の報告数（478人）の約3.7倍となっており、今回の流行は、風しんの抗体を保有していない30~50代の男性で感染が拡大しているとみられます。

岩手県では、全数把握疾患となった2008年以降、2019年第42週までに23人が報告されています。全国流行があった2013年には9人の報告がありました。

予防にはワクチン接種が最も効果的です。2回の定期予防接種（1歳児と小学校入学前1年間）を徹底しましょう。また、2021年度末までの期間に限り、これまで風しんの定期接種を受ける機会のなかった昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性（現在39～56歳）が定期予防接種の対象者として追加されました。また、妊婦への感染を防止するため、予防接種歴や抗体陽性が確認できない「妊婦の夫、子どもや同居家族」、「妊娠希望者や妊娠の可能性が高い女性」の方は、任意で予防接種を受けることが推奨されます。

【参考】・風疹とは（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/430-rubella-intro.html>

・風疹流行に関する緊急情報：2019年10月16日現在（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/2019/rubella191016.pdf>

・風しんの追加的対策について（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

追補. 風しん累積報告数の推移 2013~2019年（第1~41週）
Cumulative rubella cases by week, 2013-2019 (week 1-41) (based on diagnosed week as of October 16, 2019)

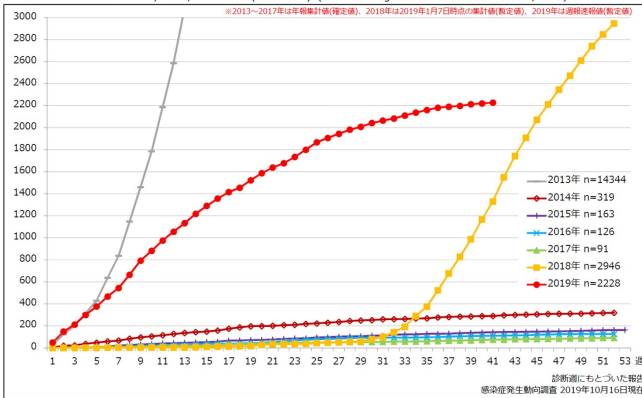


図1 全国における風しん累積報告数の推移
（2013~2019年第41週）（国立感染症研究所HPより）

6. 年齢群別風しん累積報告数割合（男女別） 2019年 第1~41週（n=2228）
Percentage of cumulative rubella cases (upper: male, bottom: female) by age group, week 1-41, 2019 (as of October 16, 2019)

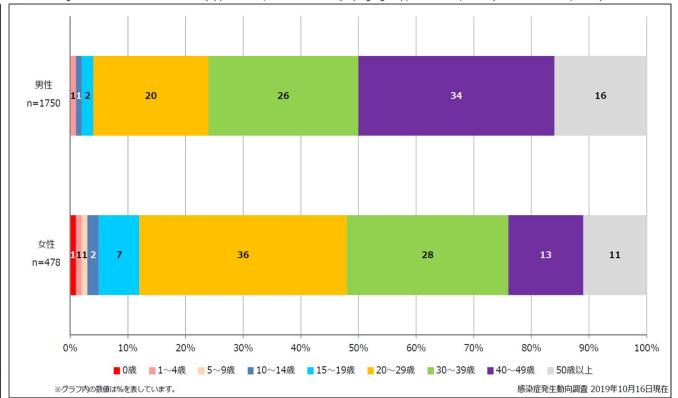


図2 全国における年齢別、男女別風しん累積報告数
（2019年第1~41週）（国立感染症研究所HPより）

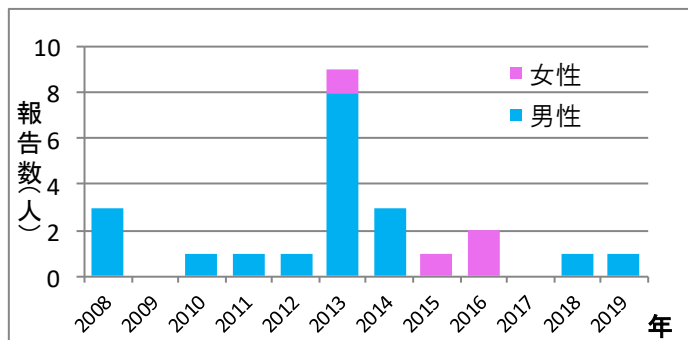


図3 岩手県における年別・性別風しん報告数（2008~2019年第42週）

今注目の感染症（つづき）

麻疹

麻疹は、麻疹ウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染経路は空気感染、飛沫感染、接触感染で、感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症するといわれています。

症状としては、感染から約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。また、ヒトの体内に入った麻疹ウイルスは一時的に免疫機能を抑制するため肺炎や中耳炎などの合併症をおこしやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症するといわれています。

全国では、2008年に10～20歳を中心に流行し、11,013例の報告がありました。2009年以降は35～732例で推移しています。2018年の累積報告数は282例でした。2019年は、第2週以降急増しており、第41週までに719例が報告されています。

岩手県では2012年第12週以降届出がありませんでしたが、2019年第4週に1例報告がありました。2008年に全数把握疾患に変更になってから、2019年第42週までに23例が報告されています。

予防にはワクチン接種が最も有効です。定期予防接種は、1歳児と小学校入学前1年間の幼児の2回です。自分が感染しないためだけでなく、周囲の人に感染させないためにも予防接種を受けることが勧められます。また、海外では、麻疹が多く発生している地域がまだまだ多くあります。海外旅行を予定されている方は、ワクチン接種歴等を確認の上、必要に応じてワクチン接種を行うことが推奨されます。帰国後は麻疹を発症する可能性も考慮して、2週間程度は健康状態に注意することも重要です。

また、麻疹を疑う症状があり、医療機関を受診する場合は、感染拡大を防止するため、事前に医療機関に連絡してから受診することが重要です。

【参考】

・麻疹について（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

・麻疹とは（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>

・IDWR 2019年第19号<注目すべき感染症>麻疹 2019年第1～19週（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/measles-m/measles-idwrc.html>

1. 麻疹累積報告数の推移 2013～2019年（第1～41週）

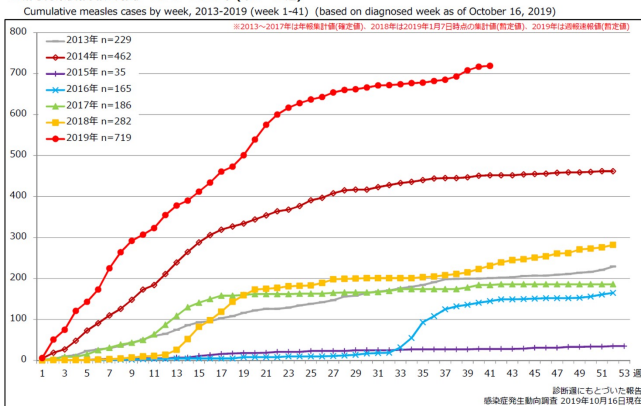


図1 全国における麻疹累積報告数の推移 (2013～2019年第41週) (国立感染症研究所HP)

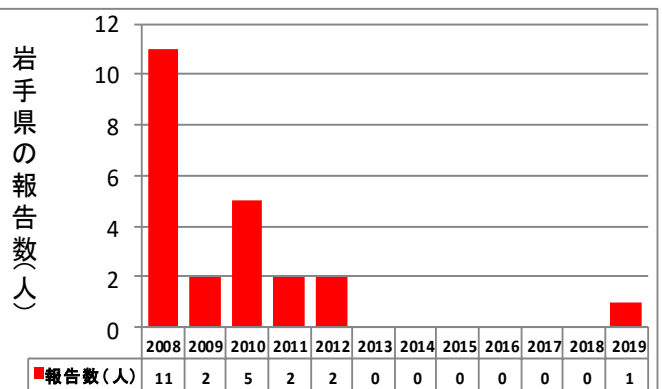


図2 岩手県における年別麻疹報告数 (2008～2019年第42週)

集団感染情報

○インフルエンザによる学校等の休業措置について

- ・岩手県 1件
- ・盛岡市 2件

詳細は岩手県医療政策室のホームページを御覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/kenkou/influ/1023628.html>

病原体検出情報

- ・この週には病原体検出情報はありません。

医療機関からの情報

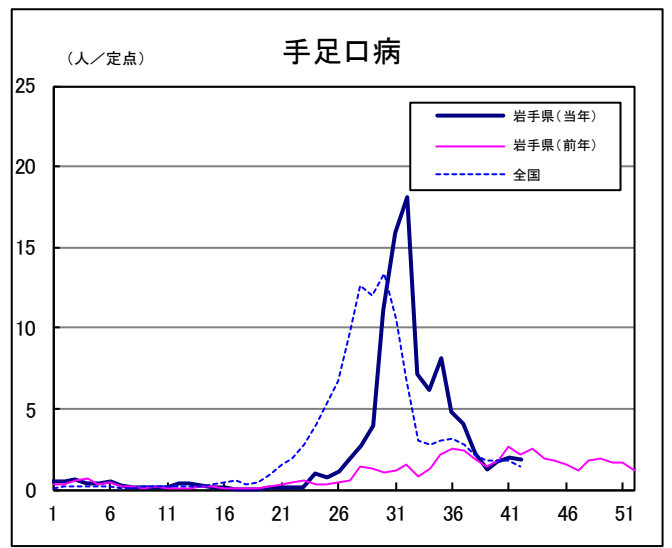
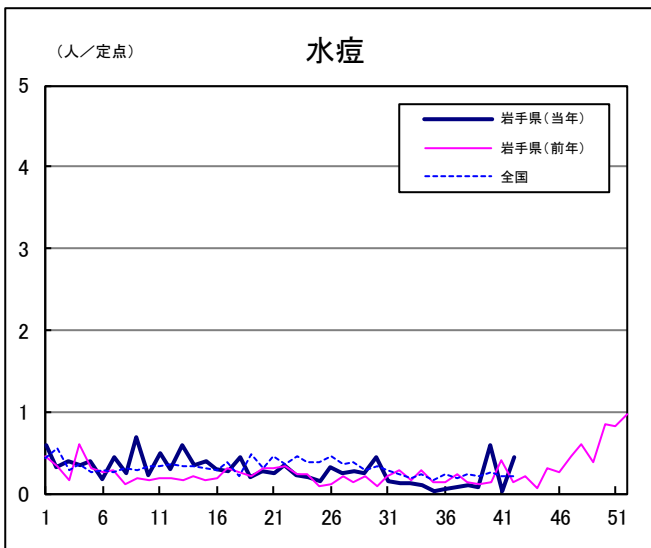
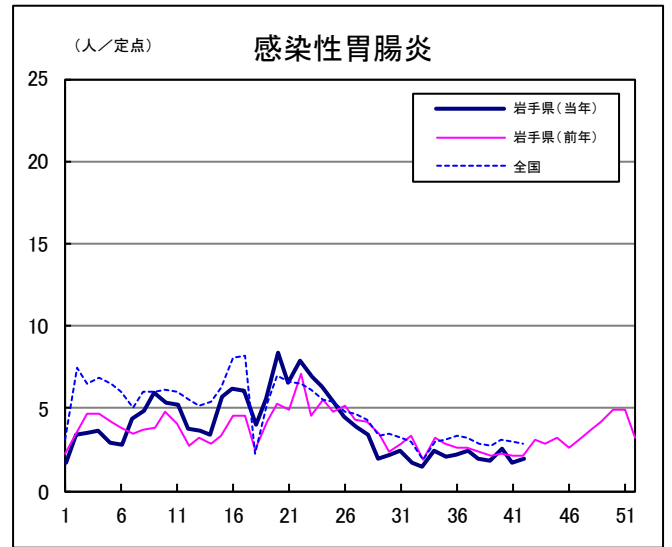
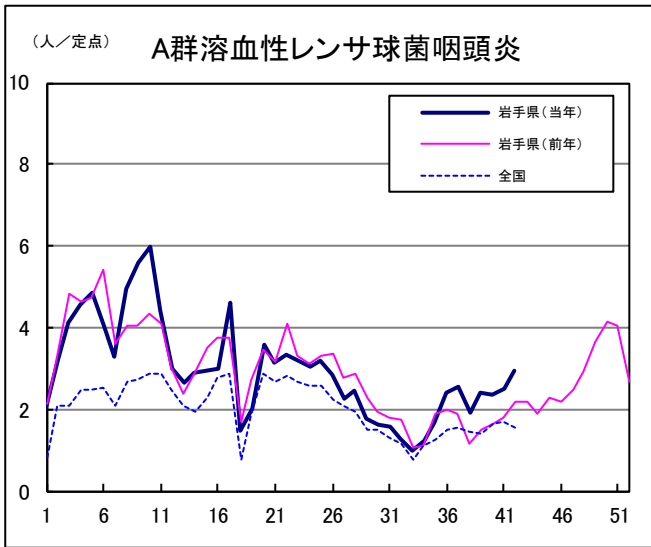
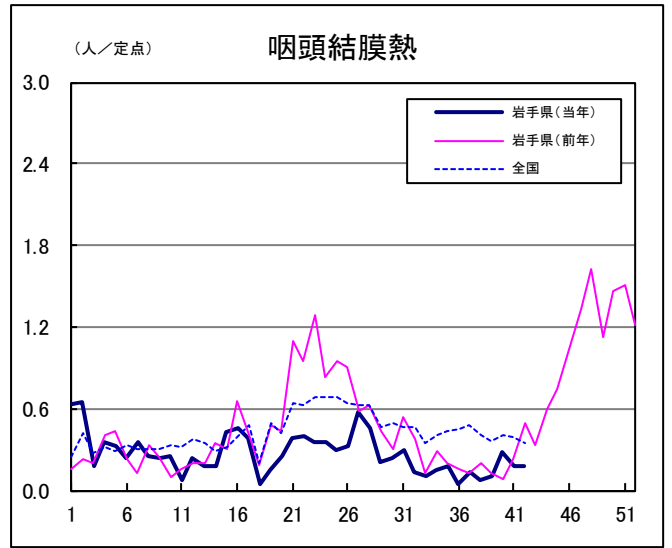
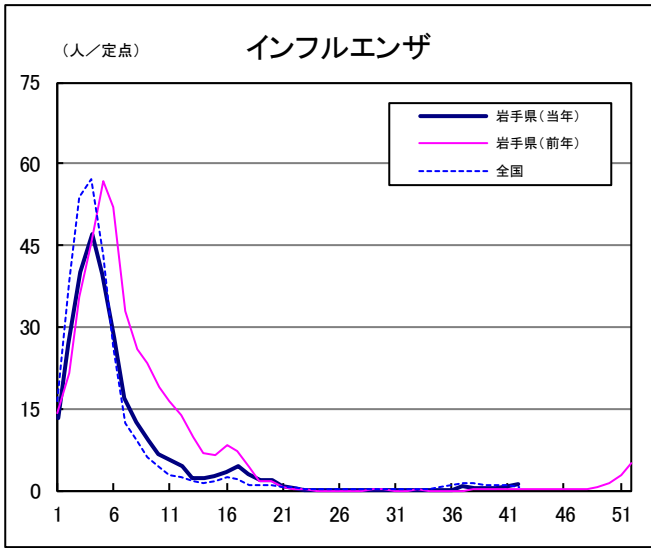
- ・この週には医療機関からの情報はありません。

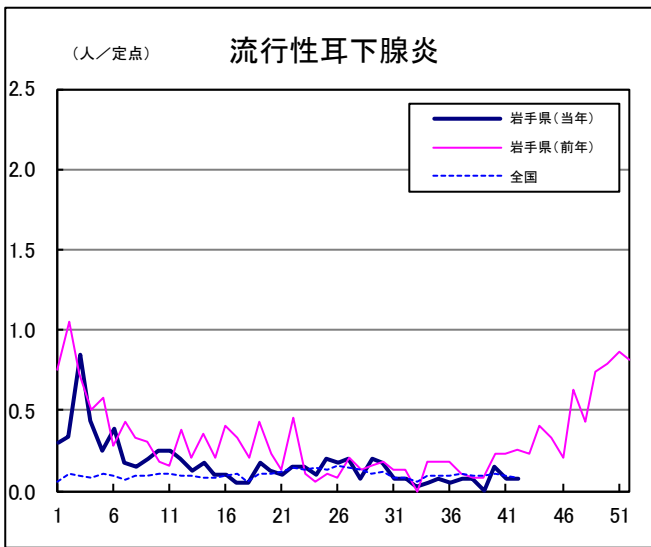
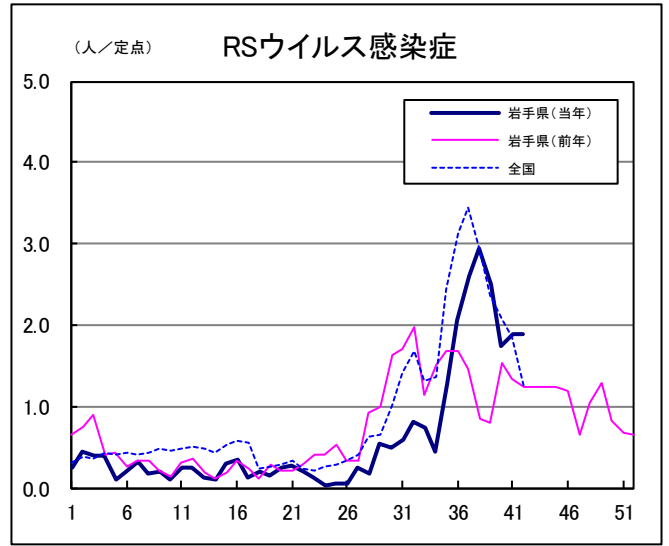
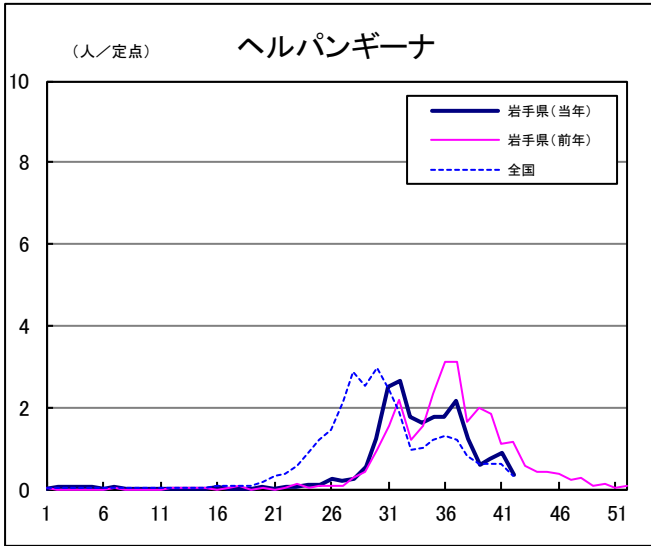
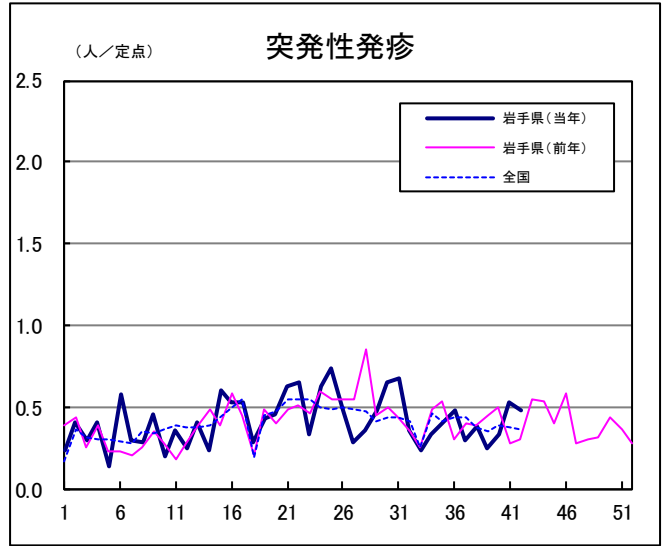
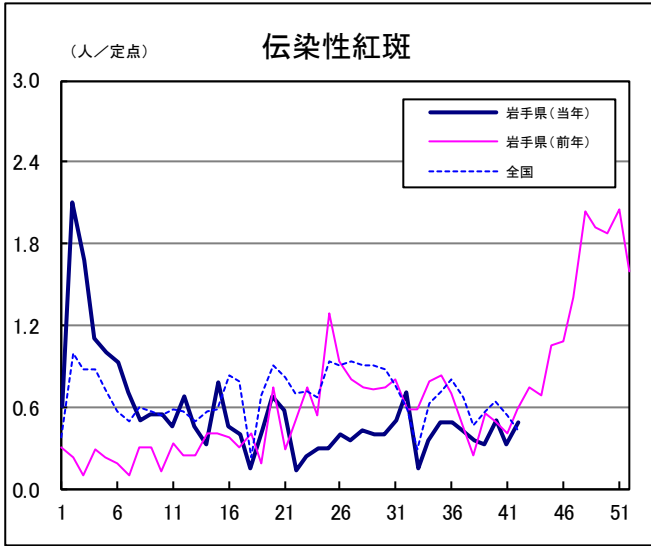
Q & A

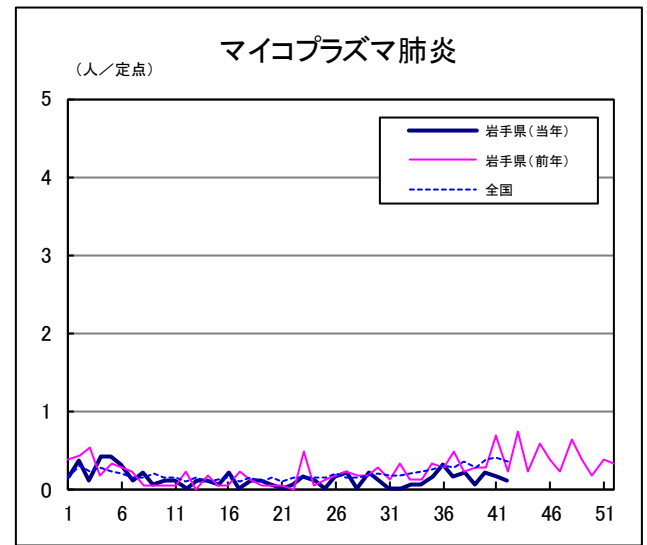
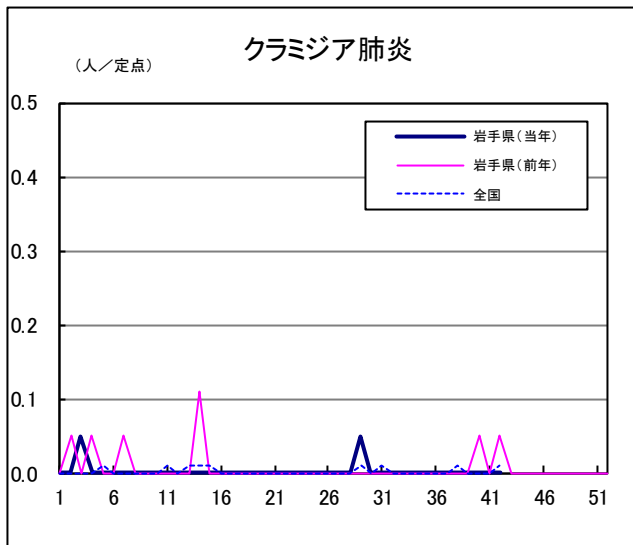
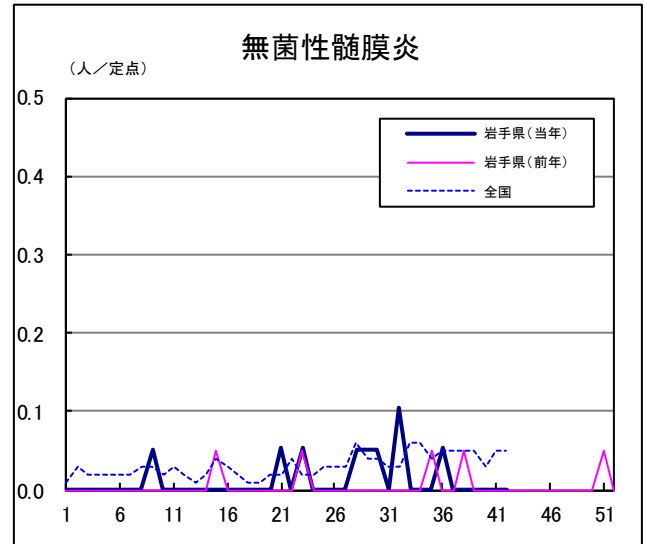
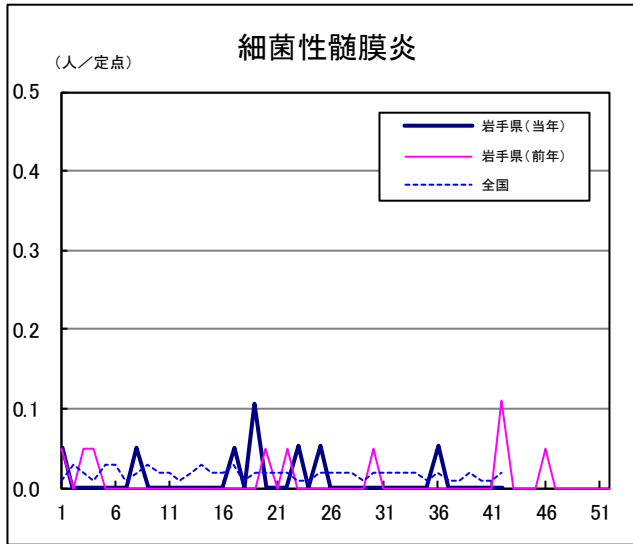
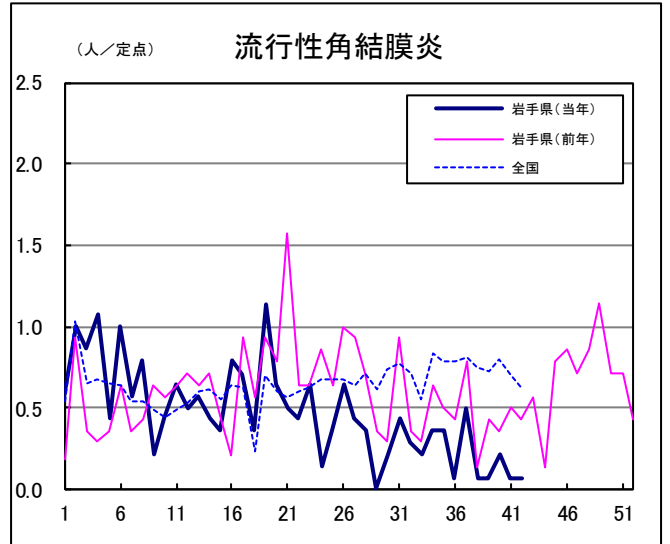
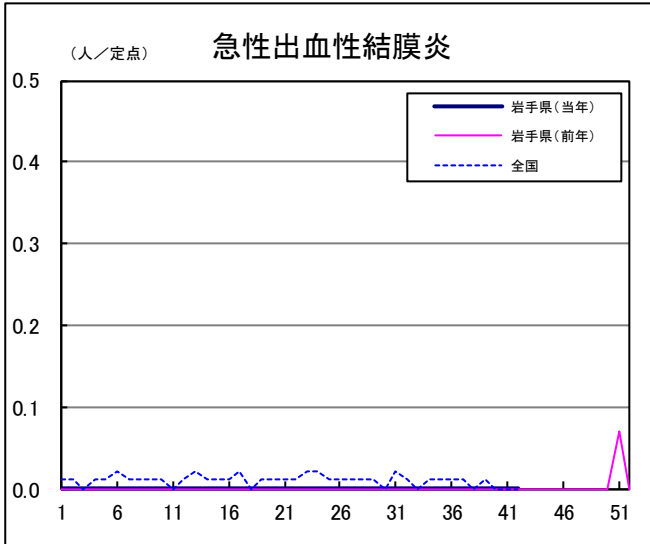
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ（定点あたり患者数の推移）







定点医療機関の数

地区	定点種別	インフル エンザ	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県		65	40	14	19
盛岡市		10	6	3	4
県央		9	6	2	1
中部		12	7	2	4
奥州		7	4	1	2
一関		7	4	1	2
大船渡		6	4	1	1
釜石		3	2	1	1
宮古		5	3	1	1
久慈		3	2	1	1
二戸		3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和元年第42週 令和元年10月25日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査委員会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>